

“発売迫る”

低音式ゴ—ゴ—



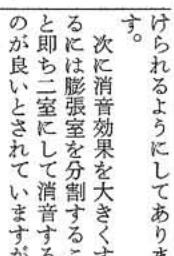
最近とみに公害問題がさわがれており、都市内に於ける建設工事、特に夜間作業においては、社会的な問題とさえなっています。そこで当社に於いても公害のない機械をと目下総力を挙げて、これが研究開発に取組んで居ります。それには先ず第一に建設現場や道路補修現場で最も多くつかわれているタンピングランマーのエンジンにつきそのマフラーを改良し音による公害を出来るだけ少なくしようということでここに低音ランマーを開発した次第です。

従来つかわれているランマーは、元より音による公響を考えた性能のよいマフラーを取付けてはいませんがそれ限度があり又、本機との関係上やけどなどをしたりじやまになったりするので余り大きなものを取付けることも出来ず、又排気孔をしれば音は小さくなくなりますが出力が落ちて使いものになりません。そこで今回当社で開発したものは写真に示した様にサブマフラーをの組み込み二つのマフラーで消音効果を出した。これは排気孔を地面に近い所へ出したので、作業者の耳の位置より遠くなり、オペレーターはもちろなん周囲に対する音響もグット少なくなりました。減音効果を大きくする一般的な構造としては先ずマフラーの母材をの厚くすることですが従来のものはこの構造にする重量がかさみ取付が困難になります。ところが本機エンジン下部にはその重いマフラーが容易に取付

(A) 第一表

90ホーソーン	8時間内
92ホーソーン	6時間内
95ホーソーン	4時間内
97ホーソーン	3時間内
100ホーソーン	2時間内
102ホーソーン	1.5時間内
105ホーソーン	0.5時間内
115ホーソーン	0.25時間内

す。又外観上もメーキングを横に飛び出さして取付けることを避けたので接触によるやけど等従来心配された問題も解決され、結局マフラー母材は一・六呎厚のものを使用することになりました。



準にし、この種建設機械では九〇ホーン以下とされ、これを越える場合は耳栓がせねばならず更に一日における作業時間も第一表の通りに規制されています。

が厳しい場合には作業能率は落ちるがムシロ敷やダンボール敷等で少しでも打撃音を少なくする方法を取るのが考えられます。

マフラーの特長

マフラーの取付位置を下部に移し、作業
ハンドルの上部に補護ハンドルをつけて
エンジンをカバーし、当初の丸型ボデー
を改造して、80型、120型と同じ菱型ボ
デーにした55型改良ランマー

基準に三ホーン上昇する毎に人間の耳には二倍の音量に、そして聴覚されるといわれ、それだけに九〇ホーン以上のものを一乃至二ホーン下げることは非常に大切であり逆に困難なことでなるわけだ。

当社での実験の結果は事

①タフルマフラー即ちマフラーの二室分離消音効果にかなり為非常に音が消された。

②サブマフラーに於ける空氣の膨張が良い為吸気効率が良く出力低下しない。

③一・六ミリの肉厚鉄板を使用している為消音効果

この低音式マフラーは、上部をメインマフラー、下部をサブマフラーとして、一体化を計り、管内を直通式にした二室分離型マフラーです。

に示す通りでありこれにより公害防止条例を下まわ

最後に音の特性について

距離 地盤条件	作業者の 耳元	10 m 地点	30 m 地点
	砂質土 25cmの盛土	89~91	69~73

(註) 上表の結果、米国では8時間連続運転可能であり、国内に於ては公害防止条例基準をなんぞ下すまい。

参考までに記します。
騒音計にはA、B、C三つの聴感補正回路があり、従来大きい音はC特性、中位の音はB特性、小さい音はA特性で測ることにされていましたが、その後の研究により音の大小に関係なくA特性で測ることになったのです。ある音のレベルはA特性の測定だけで一応充分でありますが厳密に測定する場合には参考の為にA、BおよびCの三特性又はAとCの二特性で測っておく方が望ましいとされています。

から強風が吹き荒れてはいた。従ってこ
れらの晴天に恵まれ絶好の期待に応ええ
る展示会開会のスタートに
ふさわしい日であった。
今年の出品メーカーは、商
社を含めて九十六社とほぼ
前年同様であったが前年に
にくらべて小粒といった感
で総体的に中型機械が精
力的に集中されているとい
う印象を受けた。このよう
な中で我が社が誇る主力中
型建設機械群が一際異彩を
ドルを握られていた。従ってこ

(関行本)

これら參觀者は、登坂し、両面スクリーンをのぞくべくセブンまで待つた。そして、多量の特長とそれについて貰うため急坂な実演場の中に上った。そこで停止したまま活動振りを示していた。その性能は、物体自身でハンター、その性能は、MTR-80型タンピング

毎年、全国から多数の客が来る。この見本市の歴史は古く、東京金物業界の発展育成を目的に昭和二十三年に第一回が開催されて以来、年々たくその取扱商品も変わつて来ており、建設機械も、工業製品の展示は、三公金物業界最近急速に進歩してゐる。今回四等品の展示は、三公金物、宮城鋼具、林恒商店、古谷商産店等より出品された。

出品機械は現在完全に全金物業界に於いて定着安定したMT R - 80型タンピング

見えするMCD—2B型コンクリートカッター等を御来場された御得意様に御覧頂いた。初日の三十一日は月末という事もあってか、

つて益々金物業界に、売込みまれて行くであろうとの確信を強く抱かせられた見本市であった。

都内課 堀江記



係者並に出品者メーカークラスの代表者が出席して日
わに開せレモモノ本部主催の玉割り展示会が終った景
建設機械協会の東京本部主催の玉割り展示会が終った景

とのお褒めのお言葉を頂
した。又昨年度の新製品で
ある24型ジャンボパールハ
ある24型ジャンボパールハ

東京金物ブランドフェア
は大きな期待のうちに、二
十一日開催された。この大
見本市は、本格的な需要シ
ーズンを迎えた金物業界で
の景気のバロメーターの一
つといわれるだけに、全国
金物業界の注目と関心を集
め、家庭金物、建築金物、
利器工具等が多数出店され
て毎手、全国から多岐の客

極めになり、新製品への追求が要求される折から、各出品メーカーとも実演に説

ポンプ

金物ブランドフェア

ランマー、ルート商品にな、参観者の出足にもぶり勝ちつたMVC-70型バイプロであったが最終日の一日はコンパクター、ハンドカッター、パイプレーター、金けその中でMCD-2B型物展示会では、始めてお目コンクリートカッターがこ

コンクリートポンプ

の見本市で認識を新にした。又、MVC-70型バイプロコンパクターの説明を求められる方も多く、ランマ

主催 日本建設機械化協会東京本部
主会場 東京都晴海埠頭前広場
十月三日(土)午後二時～八時開演
日本建設機械展陳列され、次々と新製品の
実演が間断なく行われた。
特に四十七年度の新製品で
あるMDR7型ダブルブ
イプレッションローラー
(セブンローラー)、MTD
II55型タンブラーランマ
(G5ゴーランマー)には
集中的に来場者が集り、「三
笠」がどのような新製品を
開発展示しているかをきび
しい目でご覧になっておら



登坂で威力を示す本年度
新製品のセブンローラー
の実演風景

第です。 種代記

主要諸元 型式 MTR—55 型 寸法 長さ六〇〇 重量 四〇〇 重量 衝撃盤寸法 高さ一〇〇〇 重量 衝撃数 長さ三三〇 重量 二八五 重量 五五〇 重量 六〇〇回 (毎分)	機関 種類 強制空冷二サイクル 燃料 混合油(ガソリン) 燃料タンク容量 二五・オイル一 クラッチ 自動遠心クラッチ 総重量 五五 kg
---	---

例年は十日間の開催であったのが今年は八日間と二日短縮されたため内容も良く密度も濃く国内はもとより遠く海外からの参観者も姿を見せ連日の賑いで本社、館林工場、春日部工場から派遣された各社員も汗だくの奮闘であった。

今回の展示会は雨天の日が多かった為かえて現場関係の人達が大変多く来場されたので社員も応待に大忙しであった。

・十八日の二日間で、同社敷地内に於て建設機械展示販売会が盛大に催された。社長以下営業員の販売意欲は極めて旺盛でこの展示会を「R-80型タンピングランマ」は梅雨の季節にも拘らず、晴天に恵まれ多数のユーザがご来場參觀された。我々社より出品のMDR-11型ダブルローラーを始めMTT

所と本社、或いは本社の人達と、日常の忙しさに紛れて失いがちな社員相互の親睦の場として高揚しつつある」ことを述べられた。これに対し、誕生者を代表して、京谷社長より、ユニモアに富んだ返礼の挨拶があり、このあと、誕生者一人一人に、京谷専務より、記念の銀盃とケーキが手渡され、賑やかな開宴となった。すでにテーブルには、幹事のすてによって、心づくしの手料理が、所狭しと用意され、秋の味覚、ぶどうも、暑かった夏の終りを告げる様に、輝やいていた。飲む程に酔も廻り、誕生者

にお祝いを述べたり、談笑したりで、まことに和気霽々たるものであった。折しも、社長の九月四日からのアメリカ視察旅行が控えて、いることもあって、歓送会にも兼ねた集いとなり、話題はつきなかつた。

七月誕生者：社長、荻本課長、炭主任、吉岡満、上原隆子、札幌出張所（神田博世、阿部宮子）

八月誕生者：新堀主任、古田主任、武蔵恒夫、東山賢司、札幌出張所（永山主任）

七、八月誕生者のうち、六月の誕生会に出席出来なかつた塩野谷主任。

— 岩崎報 —

一つの契機に今後の飛躍に
 対する決意の程が窺われ
 た。我社では展示場を一番
 大きく占領して、特殊建設
 機械メーカーとしてのイメ

い、MCD—3・2
 B型コンクリートカ
 ッター、MVC—50
 ・70・100型コンパ
 ター、MVC—3E
 型水中ポンプ、MO
 H—24型ジャンボバ
 イルハンマー、各種
 パイプレータ等、
 それに新製品の7型
 セブローラーに人
 気が集まり、ご来場
 のユザーの方々か
 ら次々と質問され
 り、直接運転され
 り、直接運転され

三笠建設機械㈱ 沼沢

昭和四十六年度優勝壺
輸出課にわたる

昭和四十六年度営業成績、営業成績を収め、幾多の困難を克服して、抜群の好成績の優勝表彰式を敢て実施した輸出課が初優勝が去る、六月二十四日(土)社長より優勝大花瓶が輸出課代表、高野課長に授与された。続いて敢闘賞が、社員が集って営業成績の向上に努力し、特に新製品の開発に努力した、その功績は大きいと、賑やかに開催された。

昭和四十六年度はドル相場の変動による経済変動の激しい年であった。技術部、磯部課長を初め全社員にそれぞれ副賞が手渡された。四十六年度はドル相場の変動による経済変動の激しい年であった。

名古屋展示会のお知らせ!!

開催日 昭和四十七年十月二十日(金) 二十五日(水)

主催 日本建設機械化協会中部支部

場所 名古屋市中村区橋下町(庄内川堤防沿)

沼の鯉釣大会が、本社の
小林工場長主催の館林近
に、二、三つ静かに分乘して、
田常務、川口次長、森澤
、菅野係長、春日部工場
長谷川工場長、小森係長
と地元の小林工場長を始
長谷川職長、青木班長の
、このあたりに顔の利く
沼製作所長をリーダー
、更には、静養先から総
京谷社長まで参加して懸
十一名、四日の晩から市
のますや旅館に泊り込ん
、取らぬ狸の皮算用に互
、天狗の鼻を競い合う前夜
から幕が開いて、翌日の
折畳椅子に腰をおろしてさ

箱根芦の湖ブラックバス釣り記

毎年八月京谷社長夫妻の二分満喫しようと思ひ揚々と先元箱根から皆の湖舟出して行った。

されるというのだからどうにしようがない、そうしているうちに遂に時間切れとなり、残念ながら荻本課長の五匹を竿頭に一同竿を上げること

にした。それでもこの悪天候に十数匹を物して、零匹という不名誉な釣士を一人も出さなかったことがせめてものなぐさめであった。

(日生)

招かれて、豪快なブラッ
 バス釣を競い合っていた
 で、本年も三日と五日と
 日と十二日の四日に分か
 て行こうになった。いた
 り、五日が館林近藤沼の鯉
 大会とぶつつかって取止
 となり、十日と十二日は
 と々と本土に接近する台風
 影響で悪天候が続き、遂
 に出漁不能となって中止さ

雲一つない朝空、遠く湖
 尻あたりに薄墨をかけたよ
 うに見える秀峰富士の偉
 容、湖を取巻く山々は、深
 い眠りから未だ覚めないよ
 うである。寂々として静ま
 りかえった湖上を行く一艘
 は、一点吾々を乗せた一艘
 の小舟と、ボンボンボンと
 こだまするさわやかなエン
 ジン音だけが、このしじ間

を破って、山々の眠りを覚
 ますかのうに思えるの
 であつた。

創立記念
全三笠野球大会

去る四月八日雨のため延び延びになっていた全三笠野球大会が九日二日快晴に大恵まれの春日部市の大沼ランドにて漸く再開された。

毎年四月八日の我社創立記念日に行われる部工場の対戦とあって試合回は渡欧中のため出席出来なかったが今日は元氣な両軍の試合を楽しませていただく。がんばってほしいとの挨拶があり、館林大塚投手、春日部川又投手の投げ合いで決勝戦がはじまった。これまで幾多の優勝経験をもつ館林工場とここ数年確実にその力をつけ一昨年念願の優勝を手中にしている気ある地元の春日部工場との対戦とあって試合

社長を囲んだ館林工場優勝チーム

先ず春日部工場が一点



今年の三笠海感じのする、まことに住みの家は、ここ数心地よい家である。特に家年続いた葉山森主のだるま屋さんのご厚意戸海岸から京浜により我が社が夏のシーズ急行の終点に近ソ中海の家としておかりす三浦海岸に開るようになったもので、各設されたが、それ室内は勿論玄關、台所、浴等に至るまで明るく衛生的で誠に申し分がない。従つて七月開設以来、社員を終了した。

この三浦海岸利用者も数多く、週末とも白山神社下の三笠海の家は、新殺するので、ウィークエンドをうまく利用してもらひ宿施設としてうよう色々と頭をなやまし使われていたもので、木造二階一度利用して見てその快建ての新らしい適さに二度、三度と申込んで

A black and white photograph of a two-story traditional Japanese house. The house has a tiled roof and a small gate in the foreground. The house is surrounded by a low wall and some trees. The photograph is positioned in the upper half of the page, with text columns on either side.

当季雑詠 1人5句
 用 紙 ハガキ又
 箋縦書
 締 切 12月20日
 社外からの投稿歓迎
 評句には薄謝を呈

永らくご投稿いただきまし
た本欄も、来年四月創刊十
周年を迎えるのを機会に、
休壇することになりました
から、次の最終号には振っ
て多数応募下さるよう願
い致します。

内便
以は
迎す

後吟

な感じがうかがえて大
白いと思った。

「という下七字にいか
秋がしのびよって来た

この句の「水登みよ

茅ヶ崎 磯 可郎

うて話しチチロに更け
り

の地藏かわいやチチロ

横浜 村松みね代

から菊に移れる野分か

横浜 神吉 煙村
 かつて老人の日を迎えけ

入れて秋草匂う盆提灯

横浜 加藤 京女
しけやき大樹に風たち

茅ヶ崎 裕 司郎
用に飛びたつ雀出穂期

嶺の雲日々うすれ秋つ

館林 長谷川金雄

茅ヶ崎 俗 百合子
はての湖に画く虹直ぐ

穗波選

二、產業俳句

Worldwide